情報を伝える　魅力が伝わる　十日町市をもっと好きになる

Public Relations 市報
とおかまち
No.307

2018 1/10
平成30年 1月10日号

特集

市長新春対談

（大地の芸術祭オフィシャルサポーター・リーダー　髙島宏平さん）［3～9ページ］

12月16日㈯松代ファミリースキー場にて
撮影協力：十日町スキー協会の皆さん
（関連記事14ページ）

主な内容

2　年頭のご挨拶
ピックアップニュース
10　新ナンバープレート
11　GAP（農業生産工程管理）認証取得
12　ノロウイルス食中毒の予防
13　所得税、市民税・県民税の申告のお知らせ
14　タウントピックス
連載コーナー①
15　地元サポーター通信／キラメキワーカーズ
17　お知らせ・ガイド
連載コーナー②
22　熱中・夢中／おらほのたから
24　ジュニア芸術祭

プレゼンスを高める年に

十日町市長　関口 芳史

年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。市民の皆さまには、日ごろより市政にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は市長3期目を迎え、中央に向かう「人、モノ、金、エネルギー」をこのまちに取り戻すことを決意した年でありました。

妊産婦・子どもの入院費の無料化や病児・病後児保育の拡充、「まつのやま学園」の開校をはじめとする小中一貫校の推進や英語教育など、子育て・教育環境の充実を図ってきました。また、高齢者や障がいのある方には、除雪費援助や在宅介護手当の増額など、細やかな支援を進めてまいりました。

一方、「段十ろう」の完成をはじめ、上越魚沼地域振興快速道路「八箇峠道路」の一部や主要地方道小千谷十日町津南線「新屋敷バイパス」の開通、さらには大正3年から続いた清津川分水問題が一つの節目を迎え、2017年は、長年の悲願が実を結んだ年でもありました。

また、2020東京オリンピック・パラリンピックの聖火台をめざし、国宝・火焔型土器№1を京都国立博物館の国宝展に出品したことや秋に実施した大手企業とのコラボレーション企画のうち、「ASOBO JAPAN」は過去最高の10万件の応募をいただくなど、縄文文化の発信に大きな追い風となりました。

さらに、農林水産省から認定を受けた「SAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域）」をはじめ、クロアチア共和国のスポーツ庁長官の来訪やイタリア・コモ市の研修生の受け入れなどにより、国際的な文化・経済交流を一層深めたことで、インバウンド誘客の可能性が膨らみました。

こうした実績を踏まえて、今年は、魅力溢れるまちづくりに向けて、さらに加速してまいります。

子どもたちが冬でも思いっきり遊べる児童遊園施設をはじめ、十日町病院の隣では、県立看護専門学校を含む医療福祉総合センターの建設がいよいよ着手されます。また、県立小出特別支援学校川西高等部の本校化に向けた活動や松代・青葉団地の分譲開始など、多くの人々の定住を後押しするまちづくりを進めてまいります。

さらに、水力発電やバイオマス・地熱などの再生可能エネルギーの創出や上越魚沼地域振興快速道路「（仮称）十日町道路」が実現することで、生活環境はもちろん、十日町市全体の活力の向上に大きな期待ができます。

そして、十日町市のプレゼンスをさらに高めて世界に力強く発信するため、フランス・パリで日本文化の魅力を紹介する政府主催の文化芸術イベント「ジャポニスム2018：響きあう魂」に国宝・火焔型土器を出展します。

今夏には第7回大地の芸術祭を開催しますが、これに合わせて清津峡や大厳寺高原は新しく生まれ変わります。また、大地の芸術祭オフィシャルサポーターをはじめとする新しい仲間やアジアを中心とした外国人観光客の急増など、大地の芸術祭がスタートした20年前には想像もできなかった大きな変化がこの地域には起こっています。

こうした潮流を掴み、日本はもとより、世界に十日町市の存在感を積極的に発信することで、「選ばれて 住み継がれるまち とおかまち」の実現に全力で取り組んでまいります。

結びに、本年が皆さま一人ひとりにとりまして素晴らしい1年となりますよう心からお祈り申し上げ、新春のあいさつとします。

世界が求めている地域づくりは、「大地の芸術祭」から生まれた

十日町市に魅力を感じ、応援してくれる人と関口市長が対談をする恒例企画。今回のお相手は、大地の芸術祭オフィシャルサポーター・リーダーの髙島宏平さんです。

今年の夏、多くの人が待ち望む「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2018」が開催されます。オフィシャルサポーターとして精力的に活動されている髙島さんから、越後妻有の魅力、大地の芸術祭に対する思いや期待はもちろん、ご自身のビジネスとの関わりなどについても、語っていただきました。（※文中敬称略）

たくさんの協力が新たな出会い・つながりを生む

市長―髙島さんからオフィシャルサポーター・リーダーとして、多くのご支援をいただくようになり、「大地の芸術祭」は新たなステージにステップアップできたと感じています。

髙島―もともと、大きな魅力があるものでしたので、僕が関わって変わったとは、自分では全く実感はありません。こんなに楽しいものを、もっと多くの人に知ってほしい。そんな思いで、僕はオフィシャルサポーターとして活動しています。

市長―多くの人からのご支援があったからこそ、大地の芸術祭はここまでに発展してきました。とはいえ、これがスタートしたばかりのころは、総合ディレクターの北川フラムさんもこのような展開は想像していなかったのではないでしょうか。

髙島―当初は単年開催の企画であったと聞いていますし、関口市長が推察されているとおり、北川さんの中でもこれほど長きにわたる計画はなかったと思います。ですが実際に開催してみて初めて、大きく発展できる「何か」を見出したのでしょう。

市長―「飯山線プロジェクト」が良い例ですね。飯山線の活性化のために2012年から始めたわけですが、前回展で土市駅と越後水沢駅に設置された「Kiss（キス） & Goodbye（アンドグッドバイ）」は大ヒット作品です。作家のジミー・リャオさんは母国の台湾で大変人気があり、このことが縁で、昨年の秋には台湾から3500人もの皆さんに越後妻有を訪れていただきました。

こんなに楽しい大地の芸術祭を、たくさんの人に知ってほしい。そんな思いで、オフィシャルサポーターとして活動しています――髙島

本質を理解して、大地の芸術祭を通じた地域づくりができるようになってきました――市長

関口 芳史　Yoshifumi Sekiguchi

十日町市長

髙島 宏平 さん　Kohey Takashima

1973年神奈川県生まれ。2000年６月に「一般のご家庭での豊かな食生活の実現」を企業理念とするオイシックス株式会社を設立し、代表取締役社長として会社のかじ取りを担う。2017年10月、「株式会社大地を守る会」と経営統合し、新会社「オイシックスドット大地株式会社」代表取締役社長に就任。

2015年からは大地の芸術祭オフィシャルサポーターとして活動の場を広げており、2016年には越後妻有を魅力ある地域にしていくことを目的としたNPO法人「越後妻有里山協働機構」の副理事長に就任した。

大地の芸術祭 オフィシャル サポーター とは

会社経営者・作家・ジャーナリストなど、それぞれ活躍する得意分野を生かし、大地の芸術祭をサポートする皆さんです。髙島さんの声かけで2015年から活動が始まり、定期的なミーティングや現地ツアーを企画するなど、精力的に活動しています。

Kiss & Goodbye（土市駅）／ジミー・リャオ

北川フラムさんだからここまでに発展できた

髙島―市民はもちろん企業や郷人会をはじめとする外部の人たちなど、たくさんの協力で成り立つ大地の芸術祭だからこそ、そんな新たな出会い・つながりが生まれているのでしょう。

市長―総合ディレクターとしての北川フラムさんについては、どう感じられていますか？

髙島―物事を発展させる新しい芽や、チャンスといった「何か」を逃さないところがすごい。お付き合いの中で多くの刺激をいただいています。何より、アートを誰もが楽しめるように考えていらっしゃるところが素晴らしいですね。

市長―北川さんからは、始まった当初から「大地の芸術祭は地域づくりだ」と口を酸っぱくして言われていました。最近、このことをご指摘いただくことがなくなりましたので、ようやく北川さんの考える本質を私たちが理解して、芸術祭を通じた地域づくりができるようになってきたと考えています。

髙島―音楽プロデューサーの小林武史さんの参加も、北川さんだから実現できたことです。僕が小林さんと北川さんの接点となったのですが、はじめは大地の芸術祭に参加していただくためにお二人を引き合わせたわけでなく、小林さんがそのとき進めていた別のプロジェクトの参考になるのではと思い、大地の芸術祭と北川さんを紹介しました。そんな中で、北川さんはあっという間に小林さんと意気投合し、前回の「アートトリエンナーレ2015」での小林さん率いるYEN TOWN BAND（イエン タウン バンド）の出演が実現しました。

市長―昨年11月に開催した「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2108企画発表会」では、北川さんから注目作品などが発表されましたね（※5ページ記事参照）。

髙島―北川さんは最近、すごみを増しています。時空を超えて飛び回っているという感覚です。

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」について

過疎高齢化の進む日本有数の豪雪地・越後妻有（新潟県十日町市、津南町）を舞台に、2000年から３年に１度開催されている世界最大級の国際芸術祭です。農業を通して大地とかかわってきた「里山」の暮らしが今も豊かに残っている地域で、「人間は自然に内包される」を基本理念としたアートを道しるべに里山を巡る新しい旅は、地域づくりの先進事例として国内外から注目を集めています。2015年に行われた第６回展は、約51万人の来場者数を記録し、経済効果や雇用・交流人口の拡大を地域にもたらしています。

「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2018」開催概要

●**会期**＝７月29日㈯～９月17日㈪（51日間）
●**開催地**＝越後妻有地域760㎢
●**見どころ**＝注目作品のひとつが、キナーレの池に設置されるレアンドロ・エルリッヒの新作です。池の底面には空が描かれ、天国のような空間がキナーレに生まれます。さらに2018のキーワードのひとつである「人間の土地に生まれるアート」の代表例として、磯辺行久の作品が登場します。
●**主催**＝大地の芸術祭実行委員会
●**共催**＝NPO法人 越後妻有里山協働機構

レアンドロ・エルリッヒ（作品イメージ）

越後妻有の魅力が広げる輪

市長―オフィシャルサポーターの皆さんは、リーダーとしての髙島さんのご友人など、そうそうたる皆さんにご就任いただいています。

髙島―僕はオフィシャルサポーターへ加わってほしい人には、まずは一緒に越後妻有を訪れて、その魅力を存分に感じてもらいます。そこで初めて、協力してもらえないかと切り出す。すると、快諾してもらえます。サポーターになってからも、皆さんとても楽しそうですよ。「誘ってくれてありがとう」という感じです。

　大地の芸術祭に来ると、皆さん子どもに還っているように思うのです。アートを見て・里山などの自然を感じて・おいしいものを食べて、そこに邪(よこしま)なものは存在しませんから。

市長―髙島さんの人徳だとは思いますが、そう言っていただくと、とてもうれしいです。確かに、一度来てもらえれば、その魅力をお伝えできる自信はあります。

髙島―今までのイベントのあり方は、大きい企業などのバックアップで行われる形式が主流であったと思います。ですが、大地の芸術祭は違う。一人ひとり小さいかもしれませんが、越後妻有が大好きなサポーターが集まって、それぞれの得意分野などを生かして、イベントを支えるという今までになかったやり方です。これが普及すれば、いま国内の地方都市が抱えている課題などの打開策となるかもしれない。ですので、僕もうまく行くことを願っています。

市長―これまでにも、越後妻有に住む人たちで試行錯誤を重ねていましたが、皆さんの協力でまた大きく変わりました。さまざまな分野で著名な皆さんから関わってもらうことは大きなインパクトで、市民の皆さんにとっても誇りになっています。とても大きな力です。

髙島―大地の芸術祭がなければ、僕たちも一緒に活動することはありませんでした。それぞれ別の会社の人間ですので、普通であれば集まって何かをすることはありませんから。芸術祭がプラットホームとなって、僕たち異業種間をつなぎ、チームとなることができました。

　ですが、大地の芸術祭がここまで成長してこられたのは、関口市長の力ですよ。今までに挙げた良いところばかりではなく、課題もたくさんあったと思いますが、一つひとつ真摯に対応して解決を図りながら続けてきたことが、こうして今、花咲いているのではないでしょうか。

オフィシャルサポーターの皆さんはとても楽しそうで、「誘ってくれてありがとう」という感じです――髙島

作家と子どもたちの交流
（前回展の様子）

越後妻有を存分に楽しんでもらうためには

市長―ありがとうございます。まだまだ課題だらけなのですが、髙島さんが感じている大地の芸術祭の一番の課題は何でしょうか。

髙島―宿泊場所の充実だと思います。これは僕だけでなく、多くのオフィシャルサポーターが言っています。宿泊場所がなければ、たくさんの人が越後妻有に訪れても、芸術作品や十日町市の魅力を十分体感できずに帰ってしまう。これは本当にもったいない。アートトリエンナーレ２０１８では、それをどう補うかですね。

市長―今回は民泊なども取り入れて、より多くの方から越後妻有に滞在していただけるように検討しているところです。

髙島―僕も国内で行われているほかの芸術祭を見ていますが、越後妻有は作品や雰囲気だけでなく食も良いですし、高いレベルにあると思います。ですが宿泊という面が弱い。

　実は僕、秋山郷の「かたくりの宿」のヘビーユーザーなのですが、越後妻有を存分に楽しむには、中心から少し離れていることが気になっていました。

市長―越後妻有は広いですからね。地域の良さを満喫してもらうためにも、何としても越後妻有の中に泊まっていただくということを考えなければならないですね。

髙島―そう思います。古い施設などでも良いと思います。越後妻有のそこでしか出せない雰囲気を味わえますから。宿泊施設を増やすことも一つですが、作品に泊まれるということは特別です。

市長―泊まることができる作品と言えば、「光の館」はいかがですか。第１回目の作品ですが、途切れることなく宿泊予約があり、海外からの観光客も多く訪れているようです。

髙島―最高ですよ。あのような施設が、もっとたくさんあると良いと思います。「絵本と木の実の美術館」や、「最後の教室」に泊まることができたら、面白いですね。

　大地の芸術祭の良さは、その場所に人とアートが共存し、直に体感できるということです。ですからアートに縁がなかった人も楽しめますし、アートは見て楽しむという概念を持っていた僕にとっても衝撃的でした。

光の館／ジェームズ・タレル

鉢＆田島征三 絵本と木の実の美術館／田島征三

「大地」がつなぐ新たな展開

市長―髙島さんは現在、ウェブサイトやカタログなどで食品・食材の販売を行う「オイシックスドット大地㈱」の代表取締役社長としてもご活躍です。昨年10月に「オイシックス㈱」と「㈱大地を守る会」が経営統合し、「オイシックスドット大地㈱」となりましたが、大地の芸術祭との運命めいたものがあるようですね。

髙島―公私ともにすっかり、「大地」づいてしまい、大地の芸術祭はうちで行っている企画みたいですね。「オイシックスドット大地の芸術祭」という名前にできませんか(笑)。それは冗談ですけれど、弊社では「オイシックス」と「大地を守る会」の２つのブランドで、消費者の皆さんへ有機野菜・特別栽培農産物・無添加加工食品など、安全性に配慮した食品・食材を販売させていただいています。

市長―経営統合であるとか、仕事でも新たなチャレンジをされておられます。オフィシャルサポーターではなく、会社経営者として越後妻有とのビジネスに可能性とか発展性はあるのでしょうか。

髙島―偶然であったにしろ、会社名と「大地の芸術祭」の名前に共通点がありますので、「大地を守

対談でも商品を提供いただきました（左から野菜ジュース・イチゴ・ミネラルウォーター）

る会」のブランドとの親和性は高いと感じます。実は、「大地を守る会」と「オイシックス」で、十日町市のお米の販売をする計画です。有機栽培米で、数を確保するのが大変なのですが、実現に向けて検討しています。

市長―新しいビジネスチャンスをいただき、ありがとうございます。ほかのオフィシャルサポーターの皆さんからも、少しずつではありますがそれぞれのビジネスで越後妻有とのつながりが始まっているようです。こんな新しい展開にも期待をしています。

市民の誇りとなる 大地の芸術祭に

髙島―大地の芸術祭は十分に本質である地域づくりを実現できていると感じますし、このあり方は今世界が求めているものであり、その原形がここで生まれたのだと思います。

市長―そこまで言っていただき、光栄です。これは市民の皆さんにもお伝えしなくてはなりません。

髙島―決して過言ではないと思います。「世界のとおかまち」になっていますよ。プレッシャーも大きいとは思いますが、良いところも悪いところも含めて、世界中から注目されています。

市長―大地の芸術祭を通じて、十日町市での暮らしと雪国文化は内外から高く評価されてきています。都会での暮らしを羨むような風潮がある中で、ここでの暮らしがある意味で贅沢なものであると言われて、市民の皆さんはうれしかったでしょうし、今では誇りに感じていると思います。事実、昨年3月に実施した市民アンケートでも、「大地の芸術祭」に関する取組みには高い評価をいただきました。特に若い世代からの評価が高かったですね。

髙島―十日町市の皆さんは謙虚な方が多いですが、このことはもっと誇っても良いと思います。今や大地の芸術祭はアート界では著名な人が公募で参加することがあるほど、価値あるものとなっていますから。

大地の芸術祭を通じて、十日町市での暮らしと雪国文化は内外から高く評価されています―― 市長

第7回展は 次へのスタート地点

市長―最後に、今年開催される第7回展「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2018」への期待を聞かせてください。

髙島―これだけ魅力のあるところで、こんなに楽しいことが行われれば、成功は間違いないと思っています。今回も会期中は一旅行客として、楽しませていただきます。

第7回展は、2019年、2020年、そしてさらに次のトリエンナーレにつながるものとなってほしい。その意味では、2018年という1年は第8回展へのスタート地点ですね。

撮影・取材協力：オイシックスドット大地株式会社

市長―2020年は「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されるわけです。この年は世界中から日本を訪れる観光客に、越後妻有に来て・楽しんで・滞在してもらって、そしてここからオリンピック・パラリンピックに出かけてもらえるようにしたいです。

髙島―2020年はオリンピック・パラリンピックがあるから日本を訪れ、2021年は「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2021」があるから日本を訪れる、ということになれば、これは想像しただけでうれしいです。すでに大地の芸術祭は日本を訪れる理由の一つに挙がっているとは思いますが、これをさらに高めてください。そのために、僕もできる限りの協力をさせていただきたいと思っています。

市長―髙島さんからの応援、本当に心強いです。これからも、よろしくお願いします。

こちらも注目

「大地の芸術祭」の里 越後妻有2018 冬 SNOWART（スノワート）

冬の奴奈川キャンパス初公開！

●**会期**＝2月24日(土)、25日(日)、3月3日(土)、4日(日)、10日(土)、11日(日)※各日とも午前10時～午後4時

¥800円、小中学生400円

内初展示の「雪アート」や「雪板」あそびをお楽しみください。越後まつだい里山食堂も出張営業します。

問「大地の芸術祭」の里総合案内所（☎761-7767）

越後妻有 雪花火2018
Gift for Frozen Village 2018（ギフト フォー フローズン ビレッジ）

日3月3日(土)午後7時から数分間

会あてま高原リゾート ホテルベルナティオ

¥1,500円、小中学生500円

内雪原に広がる光の花畑、高橋匡太「Gift for Frozen Village 2018」の作品の中、冬の花火では最大級の三尺玉が夜空を彩ります。

問観光交流課芸術祭企画係（☎757-2637）

このほか、「冬の企画展」として1月20日(土)から越後妻有現代美術館［キナーレ］で「雪あそび博覧会」などを開催。詳しくは、「大地の芸術祭」の里ホームページをご覧ください。

http://www.echigo-tsumari.jp

Pick Up 新ナンバープレート候補名の決定及びパブリックコメントについて

魚沼圏域版新ナンバープレートの新たな地域名候補が選定されました

●●●●●問合せ：企画政策課企画政策係☎757-3193

新ナンバー（図柄入りご当地ナンバー）プレート導入に向けて12月19日に開催された新ナンバープレート導入推進協議会第3回会議において、下記のとおり新たな地域名候補が選定されましたので、お知らせします。

※今までの取り組み状況などは、9月25日号・11月25日号市報掲載の記事もご覧ください

第3回新ナンバープレート導入推進協議会（12月19日）の様子
地域名について、各委員が知名度や振興策に関するプレゼンテーションを行いました

意見の募集について

ナンバープレートに表示する新たな地域名や対象となる地域、新ナンバープレートによる地域振興・観光振興の考え方などを整理し、ご当地ナンバーを追加要望するために提出する「地方版図柄入りナンバープレート地域名表示追加要望書（案）」を作成しました。この要望書（案）について、広く市民の皆さんなどから意見を募集するパブリックコメントを次のとおり実施します。

●**要望書（案）の概要**＝

①**新たな地域名候補**

「雪国魚沼」

②**新たな地域名表示を要望する理由**

地域の魅力発信とブランド力の向上が期待され、地域の一体的な振興と観光振興に大きく寄与することが見込まれるため。

③**対象となる市町村（予定）**

十日町市、南魚沼市、魚沼市、湯沢町、津南町

④**対象地域内の登録自動車数および新たな地域名候補の知名度**

【登録自動車数】

6万6105台（2017年3月31日現在）

※5万台を超えていることが条件

【知名度】

魚沼の名称は日本一おいしい米の産地として全国的に高い知名度を有する。また、雪を活用したレジャースポーツが盛んな地域として認知されている。

⑤**地域振興・観光振興での活用方策**

圏域内にある地域資源や観光資源を共有の魅力・強みとしてつなげ、対象地域をエリアとした一体的な地域振興が図られる。また、交流人口の増加や地域産品の購買促進につながることが期待される。

雪国観光圏など地域の観光振興施策へ好影響をもたらすことが見込まれる。また、雪文化のすばらしさや魅力の相乗的な発信に活用し、ブランド力の強化による観光産業の活性化を図る。

●**意見受付期間**＝平成30年1月9日㈫～2月8日㈭まで※必着

●**資料の閲覧場所など**＝企画政策課、各支所地域振興課、各公民館、情報館、市ホームページ

●**意見の提出方法など**＝任意様式にて、企画政策課へ直接持参、郵送、ファクシミリ、電子メール（t-kikaku@city.tokamachi.lg.jp）のいずれかで提出してください。

※氏名（法人や団体のときはその名称と代表者名）、住所（所在地）、連絡先（電話番号）が必須になります

※要望書（案）については、閲覧場所に配置してある資料で確認できます

Pick Up GAP（農業生産工程管理）認証取得

農産物の安全性を高めるために取り組みましょう

●●●●●問合せ：農林課農業企画係☎757-3120

2020年に開催される東京オリンピック。この一大イベントにおける飲食サービスには、認められたGAP（ギャップ・詳しくは左記）に基づき作られた農産物でなければ提供できません。現在世界ではGAPへの取組みが拡大しており、食品流通・販売企業からも注目されています。

GAP認証の取得と実践は、農産物生産工程での事故防止や経営改善にも役立ちます。市内産農産物の安全性向上のために、GAP取得に取り組みましょう。

GAPとは

農業において食品安全・環境安全・労働安全などの持続可能性を確保するための、生産工程管理のことで、**G**ood **A**gricultural **P**ractice の頭文字を取った言葉です。これらは審査認証制度であり、国内ではGLOBALG.A.P（グローバル ギャップ）、ASIAGAP（アジア ギャップ）、JGAP（ジェーギャップ）認証があります。中でもGLOBALG.A.Pは国際的な組織から承認された認証制度であり、信頼の高い食品安全認証制度として、世界で認識されています。

取組みを進める人に聞きました

平成29年10月市内で初めてGLOBALG.A.P認証を取得

有限会社花水農産
代表取締役 宮内 賢一 さん

米の輸出を考えていたところ、取引先からGLOBALG.A.P認証の取得が必要だと言われ、認証取得に取り組みました。東京オリンピック・パラリンピックで農産物を使用してもらいたいということもあります。

記録付けを行うことで、経営改善や社員教育にもつながると以前から考えていました。導入の結果、実際にコスト削減にもつながっています。日ごろからの生産工程管理をきちんと行えば、どなたでも取得できると思います。

「GAP認証経費等助成事業」のお知らせ

市ではGLOBALG.A.PやJGAPなどの認証取得に取り組む農業者の支援として、認証取得に要した審査費用や指導員資格取得経費を助成します。詳しくは、農林課農業企画係（☎757―3120）に問い合わせてください。

Pick Up ノロウイルス食中毒の予防

正しい予防方法を知り、予防に努めましょう

●●●●●問合せ：健康づくり推進課母子保健係☎757-9759

ノロウイルスは人の手や食品を介して感染し、1～2日後におう吐・下痢・腹痛などの胃腸炎症状を引き起こします。感染力も強いため、罹患しないための予防が大切です。

11月から3月は、ノロウイルス食中毒予防強化期間です。正しい予防方法を知り、家庭はもちろん、保育園・学校などでも予防に努めましょう。

調理編 加熱で退治

カキなどの二枚貝を調理するときは中心部を十分に加熱しましょう。中心が85～90度になるように、かつ90秒以上加熱することが必要です。

手洗い編 ウイルスをつけない

石けんを使った流水での手洗いを徹底しましょう。トイレの後、調理前、食事前などは十分に洗ってください。二度洗いが効果的です。（※下段に「正しい手の洗い方」を示しました）

消毒で対策編 まわりに広げない

●吐物などを処理するときは、使い捨てマスク・ゴム手袋・エプロンを着用しましょう

●汚物は使い捨ての布などで外側から中心に向けて拭き取り、その後は消毒液（500ミリリットルペットボトルにキャップ２杯分の塩素系漂白剤を入れ、水を加えて500ミリリットルにしたもの）を浸した布で10分間覆い、その後水拭きします

●拭き取った布・使用したゴム手袋などは袋に入れ、密封して捨てましょう。また、処理後もしっかり手洗いを行いましょう

※消毒液は作り置きできますが、１週間を目安に作り直してください。正しい濃度で消毒することが大切です

正しい手の洗い方

Pick Up 所得税、市民税・県民税の申告のお知らせ

早期からの準備で、確実な申告を

●●●●●問合せ：税務課市民税係☎757-3716・十日町税務署個人課税部門☎752-3181

所得税、市民税・県民税の申告は皆さんの税金や社会保険料を決定する上での重要な資料となります。申告が必要な人は、収支内訳書や明細書作成など早期から準備を進めましょう。

［申告期間］
２月16日㈮～３月15日㈭

書類の準備に困っている人へ 申告の事前相談会を開催します

申告期間中の会場の混雑緩和・待ち時間短縮のため、**収支内訳書や医療費の明細書など申告書類の作成に困っている人を対象**に、事前相談会を開催します。

※原則として当該支所地域に住んでいる人が対象ですが、ほかの地域の人も相談できます
※予約制です。希望する人は各支所市民課に日時・内容などを伝え、予約してください
※青色申告をする人は十日町税務署または近くの青色申告会に相談してください

●**相談時間**＝午前９時～12時・午後１時～４時

会　場	期　日	予約・問合せ先
中里庁舎	１月29日㈪・30日㈫	中里支所市民課（☎763-2513）
松代庁舎	２月１日㈭・２日㈮	松代支所市民課（☎597-2221）
松之山庁舎	２月５日㈪・６日㈫	松之山支所市民課（☎596-3152）
川西庁舎	２月７日㈬・８日㈭	川西支所市民課（☎768-4956）

●**相談に必要なもの**＝
・農業や営業などの収入および必要経費の分かる書類
・医療費の領収書
※申告書の作成について相談する人は、源泉徴収票など申告に必要な書類を持参してください

申告相談会場のお知らせ

～市民税・県民税の申告および所得税の確定（還付）申告会場～

申告期間に合わせ、市民税・県民税の申告相談会を開催します。申告が必要な人は各会場に直接来場してください。会場によって開催日が異なります。詳しくは、市報１月25日号に掲載します。

●**受付時間**＝
・午前８時45分（相談開始は９時）～11時30分
・午後12時45分（相談開始は午後１時）～３時30分

会　場	対象地域	期　間
十日町保健センター	十日町地域	２月16日㈮～３月15日㈭
中里庁舎	中里地域	２月19日㈪～２月22日㈭
松代庁舎	松代地域	２月26日㈪～３月１日㈭
松之山庁舎	松之山地域	３月５日㈪～３月８日㈭
川西庁舎	川西地域	３月12日㈪～３月15日㈭

～所得税・個人消費税・贈与税の確定申告会場～

十日町税務署では、所得税・個人消費税・贈与税の確定申告会場を開設します。なお、会場の開設日までは、相談場所が限られているため、長時間お待ちいただくことがあります。

●**期間**＝２月16日㈮～３月15日㈭
●**受付時間**＝午前８時30分（相談開始は９時）～午後５時
会十日町税務署１階会議室

まちの話題 タウントピックス TOWN TOPICS

待ち焦がれたスキーシーズン到来

12月16日(土)：松代ファミリースキー場

松代ファミリースキー場が、今シーズンの営業を開始しました。

市内では11月に初雪を観測したものの、以降はまとまった降雪がありませんでしたが、12月11日から続いた降雪で滑走可能となる積雪量となり、予定どおりオープンを迎えました。オープン初日はリフト代が無料となり、家族連れや地元スキーチームの練習など、多くの人で賑わった同スキー場。友人３人でスキーを楽しんでいた、地元に住む小口悠炉（ゆうろ）さん（15歳）・小野塚颯太（はやた）さん（15歳）・内山直史（なおふみ）さん（16歳）は、「今日が今シーズンの初滑りです。毎年冬になると、休日はスキーを楽しんでいます」と、待ち焦がれたシーズンの到来をかみしめるように、うれしそうに話してくれました。

先進技術を生かして交通事故の撲滅につなげる

12月11日(月)：十日町自動車学校

高齢運転者がブレーキとアクセルを踏み違い、店舗突入や歩行者に衝突する事故が全国的に激増しています。こうした事故防止対策として、十日町警察署では自動ブレーキなどの先進安全対策技術を備えた車「セーフティ・サポートカー（安全運転サポート車）」の体験試乗会を実施しました。

参加した人からは、「安全な先進技術を始めて体験し、有意義だった」「高齢者事故のニュースを多く聞くので、セーフティ・サポートカーの必要性を感じている」などの感想が語られました。

自慢の“ごっつぉ”に舌鼓　食を通じて深める交流

12月３日(日)：ユーモール

“我が家のごっつぉ（ごちそう）”を持ち寄り、多世代の交流を図る「第12回なかさと食の文化祭」がユーモール２階多目的ホールで開催されました。今年はお正月・クリスマス料理をテーマに、44人の皆さんから81品の料理が出品。家庭料理から工夫を凝らした創作料理まで、彩り豊かな料理が並び、来場者を喜ばせました。

今回の出品料理をまとめた記録集は、２月に中里支所およびユーモール内「ちょこっと」にて、１冊1,000円で発売される予定です。

「大地の芸術祭」から学ぶ

12月20日(水)：南中学校

市では、学校教育のめあてに「ふるさと十日町市を愛し、自立して社会で生きる子ども」を掲げており、各学校でさまざまな取組みを行っています。南中学校（関勝人校長・生徒221人）では、ふるさと十日町市について理解を深めることで、生徒の感性を磨き、地域への愛着や誇りを育むため、「ふるさと学習」の授業を行っています。この日は「大地の芸術祭」について市の担当職員が講話を行い、１年生80人が芸術祭の意義や地域にもたらしている効果、また今年の夏に行われる第７回展の内容などを学びました。

講話後には、生徒たちから「作品はどのくらいあるのですか」、「協力してもらっているこへび隊や地元サポーターは、何人くらいいるのですか」、「すべての作品を見るためには、どのくらいの日数がかかりますか」など、数多くの質問がありました。積極的に挙手をして質問をする生徒の姿からも、自分たちのふるさとに関心を持つための、良いきっかけとなった様子でした。

表彰おめでとうございます

厚生労働大臣表彰（平成29年度精神保健福祉事業功労）

精神の病を持つ人を抱える家族の会は、昭和46年に設立され、家族同士の支え合いはもとより、研修会を通じての学び合い・知識啓発などを柱に活動を続けています。その長年にわたる活動・実績が評価されました。会長の柳義夫さんは、「今後も精神の病を持つ家族が悩みを抱えないよう、多くの方からの入会を期待しています」と話してくれました。（※入会申込み・問合せは事務局の福祉課障がい福祉係（☎757-3782）へ）

十日町市家族会
（※写真後列は行政関係者）

多田 朋孔（ともよし）さん（39歳・池谷）

地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰（地方自治功労）

平成22年２月に当市へ移住し、地域おこし協力隊として活動地区の池谷を活性化するため、さまざまな取り組みを進めてきました。現在も「NPO法人地域おこし」の事務局長としてインターンの受け入れなど、地域社会の維持や発展のために活動しており、これらの功績が認められました。多田さんは「池谷集落の皆さんと描いた将来像が、一歩一歩形になっています。この信念を変えることなく、これからも地域づくりに取り組みたいです」と話してくれました。

連載コーナー　Serialization corner

地元から芸術祭を盛り上げよう!!
地元サポーター・こへび隊 活動日誌

JISAPO

Facebookあります

こへび隊

地元サポーター こへび隊通信 19

雪見御膳

両親が中国人で、埼玉で生まれ東京で育ちました。修学旅行以外でほかの県に行ったことがない私が、初めて十日町市を訪れたのは2015年の７月でした。国際ボランティアプログラムの一環で、大地の芸術祭のボランティアをまとめる活動を行い、翌年からはこへび隊として雪見御膳に関わるようになりました。

調理中にネギが足りなくなったときは、自分の畑へ収穫に行ったり、どんなに忙しいときもお茶の時間をつくりみんなで団らんしたり、地元のお母さんたちの結束力の強さにはいつも驚かされます。

親戚のいない環境で育ち、田舎と呼べる場所がなかった私にとっては全てが新鮮で、越後妻有は故郷のような場所です。「また来たよ～」と、笑顔でお母さんたちにいろいろな近況報告をしたいです。

きょうのこへび隊

こへび隊
林 樹子（きこ）さん
（東京都足立区出身）

東京では見られない風景

お母さんたちと一緒に作業

雪見御膳が終わった後の打ち上げ風景

■問合せ＝観光交流課芸術祭企画係　☎757-2637

若者×若者 キラメキワーカーズ
～語る 仕事・会社・十日町市への思い～
十日町市の仕事人

飯塚（かずや） 紀弥さん（昭和町２・21歳）

市内出身。アルバイトを経て正社員となり、現在３年目。当間高原リゾートベルナティオの客室清掃を担当。

清水（さや） 冴さん（津南町・21歳）

津南町出身。入社２年目。当間高原リゾートベルナティオの客室清掃を担当。

■問合せ
産業政策課
☎757-3139

入 社の決め手は サービス業の楽しさ

清水さん―高校卒業後に一度は地元を離れましたが、離れて初めて故郷の大切さを感じ、地元に戻り就職しました。もともとサービス業が好きでしたので、楽しく仕事をしています。

飯塚さん―友人に誘われ、初めはアルバイトとして勤務していました。その中で、身体を動かし、人と接する仕事が自分に向いていると感じ、正社員として入社しました。

働 きやすい環境が 日々の成長を促す

飯塚さん―客室清掃は短時間で完了させなければならないため、皆で協力して取り組みます。清掃を無事に終えると、忙しいときほど達成感が込み上げてきます。この仕事を通じ、「協力」ということの重要性を学びました。

清水さん―お客様から、お部屋を見て「きれい」と言ってもらえると、やはりうれしいです。当社はアットホームで、人を成長させてくれる会社です。言葉使いや業務に対する姿勢など、先輩方から多くのことを教わり、日々成長させてもらっています。

どんなときも、どんなことも対応できるように

清水さん―今は清掃後の最終チェックも担当しています。広い館内でさまざまな種類の客室がありますが、どの客室を担当しても完璧な仕事ができる社員を目指します。

飯塚さん―日々の業務には慣れましたが、想定外のことが発生すると、うまく対応ができないこともあります。臨機応変に、冷静に対応できるスキルを身に付けられるよう、経験を積んでいきたいです。

協力企業

■株式会社 美郷（みさと）

・リゾート施設の維持管理業、食品の製造販売
・従業員130人
・十日町市馬場4345-3
・☎758-4348
・地域に愛され、必要とされる企業経営を目指します

GUIDE ～お知らせ・ガイド～

催し・講座

十日町市特別職報酬等審議会

日 1月24日㈬午後1時30分～
会 市役所本庁舎
内 議員報酬額、市長・副市長・教育長の給与などについて
問 総務課人事係（☎757―9787）

六日町商工会婚活イベント「愛♡席居酒屋」

お酒や食事を楽しみながら、男女の交流を楽しむイベントです。詳細は六日町商工会ホームページをご覧ください。
日 1月27日㈯午後6時30分～8時・8時30分～10時※2部制
●チケット取り扱い・会 なにわ茶屋、食ingBer（ショクイングバー）くう、ぶら坊、魚沼釜蔵総本店、橙、魚沼イタリアンバル匠、四季肴酒家きなり、エバーラスティング
対 20歳以上
¥ 男性5千円、女性2千円
定 男女各50人
●チケット販売期間＝1月22日㈪まで
※チケットが完売にならなかったときは、当日会場販売あり
問 六日町商工会・羽鳥（☎025―772―2590）

あのグラin段十ろう

70年代のフォークや歌謡曲を中心に放送する人気ラジオ番組、「あの頃青春グラフィティ」を公開生放送します。鈴木康博さん（元オフコース）が特別ゲストで出演します。
日 1月27日㈯午後1時～4時
※開場午後0時30分
会 越後妻有文化ホール「段十ろう」
問 エフエムとおかまち（☎752―7830）※平日午前9時～午後6時

新春寄席 五街道雲助（ごかいどうくもすけ）独演会

【第26回初笑い上野寄席楽集】
日 1月27日㈯午後2時～
※開場1時30分
会 上野集会所
¥ 1800円（前売り150円）※飲み物・お楽しみ付
●チケット取り扱い・問 フードだいも店ほか（☎7―6830）
【第20回初笑い下条寄席】
日 1月28日㈰午後1時30分
※開場1時
会 利雪親雪総合センター
¥ 1800円（前売り150円）、中学生以下千円
※20回記念グッズ付き
●チケット取り扱い・問＝下条公民館・下条地区内の商店（☎755―2004）

ささやまラボ 火焔型土器チョコ作り

土器破片の型で本物そっくりのチョコレートを作りませんか。
日 2月4日㈰午前10時～正午
会 笹山縄文館

第69回 十日町雪まつり［追加情報］

ツマリアンボール出場チーム募集

３チーム同時に対戦する雪上バレーボールです。
日 2月18日㈰
会 コミュニティひろば（十日町高校グラウンド）
¥ 1チーム4,000円（応募多数のときは抽選）
〆 1月29日㈪午後5時必着
申・問 申込書（事務局に配置。ホームページでも入手可）を郵送または持参で十日町雪まつり実行委員会事務局（☎757-3100）

コミュニティひろば ボランティア募集

一緒に汗をかいて感動を共有しましょう。
日 2月5日㈪～19日㈪
対 高校生～40歳くらいの健康な人
内 雪上茶室・すべり台などの作成・運営
〆 2月4日㈰
申・問 公益社団法人十日町青年会議所事務局・蕪木（☎757-5111）

日日時 休休館日 会会場 対対象者 ¥料金（記載がないときは無料） 定定員 内内容
持持ち物 講講師 他その他 〆締め切り 申申し込み 問問い合わせ FＦＡＸ

対親子の参加も可
¥２００円
定15人
内チョコが固まるまでの間、土器の拓本とり体験を行います
〆1月28日㈰
申・問住所・氏名・電話番号を博物館へ（☎７５７―５５３１）

第59回 川治地区新年娯楽大会

日2月4日㈰午後0時30分～午後5時ごろ※受付正午～
対市内在住の人※麻雀は高校生以下不可
¥千円※中学生以下無料
内囲碁・将棋・花かるた・百人一首・麻雀・小学生のオセロ
※入賞者には賞品・参加賞もあり
他昼食を済ませてから参加してください。申し込みの少ない種目は中止することがあります。
〆1月31日㈬
会・申・問川治公民館（☎７５２―２２２３）

募集

意見募集 「十日町市歴史文化基本構想(案)」

パブリックコメントとして、意見を募集します。
●**募集期間**＝1月4日㈭～24日㈬※必着
●**資料の閲覧場所**＝文化財課・企画政策課・各支所地域振興課・各公民館・情報館・市ホームページ
●**意見の提出方法**・問持参・郵送・ＦＡＸ・電子メール（museum.10@city.tokamachi.lg.jp）のいずれかで、〒９４８―００７２西本町1丁目３８２番地1 文化財課へ（博物館内☎７５７―５５３１、Ｆ７５７―６９９８）

平成30年産 新潟県特別栽培農産物認証申請受付中

制度の詳細は、市報12月10日号24ページをご覧ください。
〆2月1日㈭※栽培開始が4月～8月のもの
申農業振興事務支援センター（ＪＡ十日町営農生活センター内）
【申請書事前内容確認会】
日／会1月23日㈫午後1時30分～3時／市役所中里庁舎、1月24日㈬午後6時～7時／十日町地域振興局
内申請書類の記入方法の確認や疑問点について
申十日町地域振興局農業振興部
●**相談**・問十日町地域振興局農業振興部（☎７５７―５５１８）または農業振興事務支援センター（☎７６１―７１４４）

十日町市社会福祉協議会 正職員募集

●**募集職種**＝保健師・訪問介護員
●**採用日**＝平成30年4月1日
●**募集人数**＝各1人
●**応募資格**＝概ね40歳以下の保健師・介護福祉士資格を有する人
〆1月19日㈮
問ハローワーク十日町（☎７５７―２４０７）または市社会福祉協議会（☎７５０―５０１０）

福祉・健康

赤十字救急法基礎講習会

【夜間講習コース】
日2月7日㈬・21日㈬午後7時～9時
会市民交流センター分じろう
対15歳以上
¥１５００円※教材代・保険料
定先着10人※3人以上で実施
内心肺蘇生法、ＡＥＤでの除細動・気道異物除去など
〆開講日の1週間前
申・問日赤十日町市地区事務局（社会福祉協議会内☎７５０―５０１０）

子育て

ハローパパママ学級

健やかな赤ちゃんを産み、育てていくための教室です。パパもぜひ参加してください。
日2月9日㈮・23日㈮午後1時15分～3時30分

「とおかまち発」新しいビジネスが生まれています

12月16日に、十日町市ビジネスコンテスト「トオコン2017」が開催され、「創業部門」「第二創業・経験者部門」「学生アイデア部門」の３部門からビジネスプランが発表されました。幅広い年代から、事業化を目指した熱いプレゼンテーションが繰り広げられ、会場は盛り上がりました。結果は以下のとおりです。今後は、発表者により事業化が進められます。

●**結果**＝プラン名／発表者（敬称略）

最優秀賞（第二創業・経験者部門賞、オーディエンス賞も受賞）	雪国base ～基地の建設～ 地元雪国十日町の美味しい自然を知る、食べる。／ 農家民宿茅屋や　高橋美佐子
創業部門賞	人を旅する十日町／ 株式会社 HOME away from HOME Niigata　井比　晃
学生アイデア部門賞	ホテルかまくら／ 新潟産業大学 チーム ＧＯ！ＧＯ！（代表：岡元伶王）

※公式ホームページ（http://toocon.jp/）でも紹介しています。受賞プランをはじめ、トオコン出場プランの事業化は、市の補助金が活用できます
問産業政策課商工振興係（☎757-3139）

福祉分野の計画（素案）についての意見募集など

●**対象となる計画**＝
①十日町市地域福祉計画　②十日町市障がい者計画・障がい福祉計画・障がい児福祉計画
③十日町市老人福祉計画　④介護保険事業計画

【パブリックコメントについて】
●**意見の募集期間**＝１月15日㈪～２月２日㈮
●**意見の提出方法**＝持参・郵送・FAX・電子メールのいずれか
●**概要**＝下表のとおり

計画	資料の閲覧場所	提出・問合せ先
①	福祉課、各支所市民課、情報館、各地区公民館	福祉課福祉支援係（☎757-9739）
②		福祉課障がい福祉係（☎757-3782）
③	医療介護課、各支所市民課、情報館、各地区公民館	医療介護課医療・おとしより支援係（☎757-9758）
④		医療介護課介護保険係（☎757-3757）

※すべての計画について、市ホームページでも資料を閲覧できます
※FAXでの提出はＦ757-3800へ、電子メールでの提出は福祉課：t-fukushi@city.tokamachi.lg.jpへ、医療介護課：t-iryo@city.tokamachi.lg.jpへお願いします

【住民説明会について】
①・③・④の計画は、下記の日程で住民説明会を開催します。

開催日時（全て１月）	会場(予定)	開催日時（全て１月）	会場(予定)
11日㈭午前９時30分	松代庁舎	19日㈮午後２時	水沢公民館
11日㈭午後１時30分	松之山自然休養村センター	23日㈫午後１時30分	下条公民館
16日㈫午前10時	川治公民館	23日㈫午後２時	中里庁舎
17日㈬午後１時30分	川西庁舎	24日㈬午後１時30分	市役所車庫棟大会議室
18日㈭午後３時	吉田公民館		

会保健センター（市役所本庁隣）
対4月～8月出産予定の妊婦とその家族
内9日㈮は歯科検診とブラッシング指導を行います。23日㈮は抱っこやおむつ交換、沐浴の練習や妊婦体験ができます。
〆2月1日㈭
申・問健康づくり推進課母子保健係（☎757―9759）

慈光こども園「慈光ぽけっと」病後児保育事業開始

児童がまだ病気の回復期（症状が安定して、回復に向かっている時期）で保育園や小学校での集団生活が難しく、保護者が仕事などで看護を行うことができないときに一時的に預かる保育サービスです。利用方法の詳細は問い合わせください。
問慈光ぽけっと（☎090―2762―5710）

「国の教育ローン」（日本政策金融公庫）

高校・短大・大学・専修学校・各種学校や、外国の高校・大学などに入学・在学する子どもを持つ家庭を対する公的な融資制度です。
●**融資額**＝子ども1人につき350万円以内
●**金利**＝年1・76％（母子家庭の人などは年1・36％）※平成29年11月10日現在
●**返済期間**＝15年以内（母子家庭の人などは18年以内）
問教育ローンコールセンター（ナビダイヤル☎0570―008656）または（☎03―5321―8656）

くらし・相談

平成30・31年度十日町市入札参加資格審査申請

平成30・31年度に市が行う建設工事や建設コンサルタントなどの業務、また物品購入の入札に参加を希望する事業所は、参加資格審査の申請をしてください。必要書類などの詳細は市ホームページをご覧ください。
●**受付期間**＝2月1日㈭～28日㈬※期間外は申請不可
●**資格有効期間**＝4月1日～平成32年3月31日
●**注意事項**
・平成31年度のみの入札参加資格審査申請は平成31年2月に受付予定です
・建設工事の入札参加資格審査申請には経営事項審査を受けていることが必須条件です。詳細は県土木部監理課建設業室（☎025―280―5386）に問い合わせてください
・施設管理や清掃業務など役務の提供のみの業務は申請不要です※資格登録審査制度を設けていません
問財政課契約検査係（☎757―3114）

要件緩和 認定外道路除雪事業の補助

市内全域で道路に面する家屋の戸数が、2戸以上の道路除雪が補助対象になりました。詳細は問い合わせてください。
問建設課維持係（☎757―9932）

コミュニティの発展に向けて ―コミュニティ助成事業報告―

一般コミュニティ助成事業

●宮下町東町内会：俄の台車の修繕

地域の芸術環境づくり助成事業

●農耕文化とアートのコラボレーション事業

一般財団法人自治総合センターでは、地域コミュニティ活動の充実・強化を図るため、宝くじの受託事業収入を財源とした「宝くじの社会貢献広報事業」を実施しています。左記の事業は平成29年度の宝くじの助成金により実施されました。

問企画政策課協働推進係（☎757-3693）、観光交流課芸術祭企画係（☎757-2637）

平成30年度 十日町市奨学生を募集します（貸与型奨学金）

対平成30年度に高等学校・高等専門学校・専修学校・大学（短大を含む）に進学予定または在学中で、次の項目全てに該当する人
・保護者が市内に住所を有していること
・学業成績が優秀であること
・経済的な理由で学資の支払いが困難なこと
●**奨学金の月額**＝
高等学校……1万円
高等専門学校…2万円
専修学校……3万円
大学・短大……3万5,000円
●**入学準備金の額（平成30年度入学予定者のみ）**＝
高等学校……20万円
高等専門学校…30万円
専修学校……30万円
大学・短大……50万円
●**貸与期間**＝平成30年4月から最短修業年限の終わりまで（無利子）
●**提出書類**＝
①奨学金等貸与願書
②在学（卒業）学校長の推薦書
③成績証明書
④世帯の中に平成29年1月2日以降に市内に転入した人（ただし、小・中学生や高校生以上の学生は除く）がいるときは、その人の分の平成29年度（平成28年分）所得課税証明書
※①②は教育総務課・子育て支援課・市内中学校・南魚沼市・郡市内高等学校に用意してあるほか、市ホームページでも入手可
※④を本人以外が窓口で請求するときは委任状が必要
●**願書受付期間**＝1月10日㈬～2月28日㈬必着
申・問教育総務課庶務係（川西庁舎内☎757-3118）
※本庁子育て支援課でも願書の提出ができます
※内定の合否は3月末までに通知します
※借り入れ時には連帯保証人が2人必要です。1人は保護者、1人は原則として市内居住世帯を異する独立した生計を営む成年者で返済能力を有する人です

平成30年度 市内で働く看護師などの修学生を募集します

対平成30年度に次の養成施設に進学または在学する人で、将来市内でその業務に従事しようとする人※市の奨学金を受けていないこと
・看護師　・作業療法士
・准看護師　・言語聴覚士
・保健師　・社会福祉士
・助産師　・介護福祉士
・理学療法士　・精神保健福祉士

●**貸与月額**＝2万5,000円
●**貸与期間**＝平成30年4月から最短修業年限の終わりまで（無利子）
●**提出書類**＝貸与申請書・健康診断書・保証書・口座振込申込書（以上、市ホームページから入手可）・学業成績表
他養成施設卒業後に資格を取得し、引き続き市内でその業務に従事したとき、その期間などにより修学資金の返還が免除になるときがあります。詳しくは問い合わせてください。
〆2月28日㈬
申・問医療介護課 医療・おとしより支援係（☎757-9758）

このとき熱中&夢中!

市民活動ネットワークひとサポが、旬な人・団体を紹介します。 118

きものパーティー実行委員会

手作りショーで市民の元気の源づくり

衣装制作や出演も含め、すべて市民の手によって行われるきものリメイクファッションショーの企画・運営を行います。タンスに眠るきものを洋服に作り直し、もう一度世に出して活用するとともに、乳幼児から高齢者までの市民モデルにいきいきと楽しんでもらうことを目的に開催しています。現在、1月27日(土)の開催に向け、準備の真っ盛りです。

◆問合せ：樋口道子さん（☎090―7200―3700）

「着飾ってステージに上がると、みんな背筋がピンと伸びて驚くほどいきいきしますよ」と笑顔の樋口さん。パーティーのオープニングでは、オペラや能楽などプロの歌声を直に聞くことができるセレモニーも恒例です。

不要になって譲ってもらったきものや安価で購入した古布を洋服に変え、新たな命を吹き込みます。今後もイベントを継続していくため、新たにリメイク服の販売体制を整えました。

衣装制作は主に「まちなか手芸部」が担当。最近は我が子のために自分で衣装を作り、親子で出演するモデルも増加。週に一度集まり、洋裁を仕事としていたメンバーの一人が若い母親たちに技術を伝えています。

活動を紹介したい団体を募集しています
ひとサポ ☎761―7444

9年前の横浜開国博で、高齢者の生きがいづくりとして日本高齢者生協連合会のファッション倶楽部が行った「きものリメイクショー」に感銘を受け、十日町でもやりたいとすぐに動き始めた代表の樋口道子さん（高田町1・71歳）。パーティーは100人を超える市内外のボランティアによって支えられています。モデル・受付・舞台袖・着付けなど、たくさんの協力は普段からさまざまな活動に積極的に参加して生まれたつながりの賜物です。バンド演奏などを盛り込むことで、ショーを見るだけでなく、食べて・飲んで・踊って・楽しめるイベントとして、クロステン大ホールを毎年賑わせてきました。

一方で、ボランティアでの運営は苦労が多かったことも事実。そのため、今までのやり方としては今年を集大成とし、今後は小規模なものを市街地各所で年に数回開催する形になる予定です。「明るく元気に生きていくためのきっかけにしてほしい」という思いはそのままに、新たなものへと発展していきます。

おらほのたから

―つなぐ知恵と技― 32

だるまストーブ

小堺 澄（きよし）さん（蓬平（よもぎひら）・72歳）

10月末ころになると、だるまストーブを使う生活が始まります。5月末のぜんまいが取れるころまでの半年以上もの間、生活の一部となります。

「朝起きてまず薪（まき）に火をつけ、ストーブの上で朝食の餅やイモを焼いたり、湯を沸かしたりするんだ。毎朝ストーブを囲んで朝食をとるんだよ」と火バサミで炭の様子を見ながら話す澄さん。掘りごたつを暖めるための練炭・豆炭の着火にも使用するそうです。部屋の様式にも工夫がされています。例えば、ストーブの周りの床下には芋穴と呼ばれる貯蔵庫があり、寒さに弱いイモを保管できる造りになっていたり、薪を水気から守り、乾燥を促すための薪の保管小屋が屋内に設置されていたりします。

すべてに、環境から生まれた生活の知恵が感じられます。今まで、大地の芸術祭の作家さんや田舎体験に来る海外からのお客さんなど、多くの来訪者がその生活を体験しました。「だるまストーブは部屋を暖めるだけでなく、家族団らんの場所でもあるんだ」

「身体も心も温まる生活の中心」

❶毎朝餅を焼き、湯を沸かす❷煎餅焼き❸芋穴は里芋やサツマイモなどの保存場所❹サツマイモは寒さに弱いので籾殻（もみがら）の中に入れている❺ひょっとこは練炭を置くための道具❻冬場のために、家の中の物置場に薪木を保管している❼奥さんの幸子（さちこ）さん（68歳）とおばあちゃんのマツさん（94歳）と、家族団らんのとき

取材した人

地域おこし協力隊 渋谷 和憲さん

だるまストーブは身体を芯から温めてくれるだけでなく、これを通してこれまで維持されてきた昔からの文化が受け継がれていました。物を受け継ぐことの大切さやそのカッコよさを感じました。

里山で育まれた知恵や技をぜひ紹介してください。自薦他薦は問いません。申し込み・問い合わせは企画政策課広報広聴係☎757―3112まで

■発行/十日町市役所 〒948-8501 新潟県十日町市千歳町３丁目３番地
E-mail koho@city.tokamachi.lg.jp URL http://www.city.tokamachi.lg.jp/ ■編集/企画政策課広報広聴係
TEL.025-757-3112 FAX.025-752-4635

ジュニア芸術祭

鐙島小学校 151

大きなかぶとなかまたち

柳　陽菜（あきな）さん（1年）

大きなかぶがぬけて、みんなでよろこんでいるところです。花をスケッチペンでかくのがたいへんでした。花の色をぬるのをがんばりました。

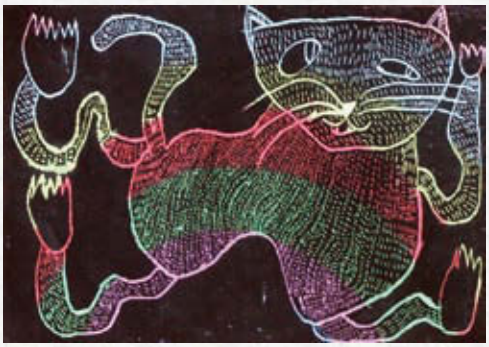
にじ色のくらげ

野上　歩吹（ふぶき）さん（2年）

国語で学習した「スイミー」を自分で作った色紙をつかってはり絵にしました。にじ色のくらげが楽しそうに泳いでいるようすが上手にできました。

おどるネコちゃん

野上　裕希（ゆうき）さん（3年）



画用紙にクレヨンで色をつけて、黒い絵の具をぬりました。そこにクギをつかってネコをほりました。ネコの毛の細かいところまでほることができてよかったです。

大きなシャボン玉 吹いた

丸山　萌衣（めい）さん（4年）

シャボン玉を吹いている私を絵にしました。シャボン玉の形を、本物みたいに工夫しました。あと、人がシャボン玉を吹いているように、目の向きや手の形を考えました。

先生よりも先に問題を答えられた

水落　瑛太（えいた）さん（5年）

背景を教室内にするのではなく、気持ちを表した明るい色で表現しました。点々ぬりしたところが大変でしたが、きれいにぬれてよかったです。

みんなでダンシングタイム!!

高澤　友花（ともか）さん（6年）

全体的に薄く塗って、緩やかな絵に仕上げました。ワカメをさまざまな緑色で塗り、ウツボをカラフルにすることで、楽しそうに踊っている様子を表現しました。